

京都市市民参加推進フォーラム

第3回 第2期京都市市民参加推進計画改訂部会 次第

日時：平成27年1月28日（水） 午前9時30分～午前11時30分 場所：寺町第1会議室
--

1 開 会

2 議 題

（1）第2期京都市市民参加推進計画改訂の論点について

（2）平成26年度市民参加円卓会議について

3 閉 会

【配布資料】

資料1 第2期京都市市民参加推進計画改訂の論点について

資料2 平成26年度市民参加円卓会議について（案）

第 2 期京都市市民参加推進計画改訂の論点について

計画全般について

- この計画の施策は 1 つ 1 つ 単体としてあるのではなく、ステップとしてあり、配置されている施策がチェック項目として妥当かどうかという視点で見直す必要がある。(永橋)
- 推進施策 2 は、市民の自主的な活動を丁寧に支えていくために、「もし行政が市民の自主的な活動を支援するのであれば、こういう事を大事にすべきではないか」という投げかけになっている。(永橋)
- 優秀な NPO は、色んな場面で、行政と市民を繋ぐ役割を担えるはずなので、NPO がどう育っていけるかという視点の取組も大事だ。(杉山)
- この計画を、チェックリストという視点で見た場合、「絶対やらないといけない事」なのか、「とりあえず取り組めばいい事」なのか、計画を見直す中でしっかり考えていくべきだ。(野池)
- 「絶対やらないといけない」項目については、全部局で「何故やれなかったのか」ということを載せる事が必要だ。強弱をみせていく評価のあり方でないと、本当の意味で市民参加推進フォーラムもチェックをしたり、意見を言う事にならない。全部をチェックするのは難しいが、それをやらないと本当の見直しにならない。(野池)
- この計画は、基本的には意欲のある市民による活動をどう支えていくのかという考え方で作られているが、地域の力が弱体化しているという事が厳然としてあるため、その中で行政としてどういう関わり方が必要なのかという事を考えないといけない。(永橋)
- どういう状況であれば行政も支援するのか、活動されている委員の皆さんから事例なども教えていただきながら、検討していきたい。(永橋)
- この計画には、「新しい事をやりましょう」、「充実しましょう」、「継続しましょう」とは書かれてあるが、どうクローズしていくかが書かれていない。(辻)
- 「参加と協働で、活力のある地域社会を実現する」という書き方をすると、市民目線ではピンとこない。もっと問題を率直に語った方が分かるのではないか。(杉山)
- 「そもそもまちづくりは市民自らが取り組むことだ」と行政が言うのは難しいかもしれない。それを言うのは市民参加推進フォーラムのミッションだと感じる。(杉山)
- 出来る事からという事で言えば、市民団体、NPO の体力増強であり、既存のアクターへのテコ入れ、まだ政策課題に挙がっていないような課題に取り組む人々への援助など、その為に取り組むべきことを話せばいい。(永橋)
- 町内会、自治会、民政委員、ボランティアに頼って来た部分に新たな人を新たな形で巻き込んでいく。もしくは、民政委員をプロフェッショナル化、職業として機能させるという 2 つが必要だ。(辻)
- 今の計画はアクティブな人を想定しているが、今後も、アクティブな人は勿論の事、

そうでない人にどう参加してもらうかという視点が重要だ。今は働いている方の参加が少ない。これから担い手になる学生、若い世代のことをしっかりと考えていけるような計画になれば良い。(芝原)

- 市の若手職員、これからの市役所を担っていく職員さんへのメッセージも作っていただければ良い。(芝原)

推進施策 1 市民の市政への参加の推進

(1) 政策・施策の形成過程の見える化(可視化)

- 各事業の「可視化」はできているが、情報が多すぎて埋もれてしまっている。(杉山)

施策 1 施策・事業ごとの参加手法及び市民の声を市政に届ける制度の流れの公表

(2) 市民に必要な情報を届け、たどり着く情報提供の促進

- 情報を発信する事とともに、検索したい側が検索した時にすぐたどり着けるようにする事が大事であり、何か関心があって検索した際に、「こういう形で市政に参加できますよ」というような形で誘導するなどできないか。(辻)

施策 2 市政に関心を持つ市民を参加につなげる取組の推進

施策 3 参加の制度を知らない市民や時間のない市民を参加につなげるための情報を届ける取組の推進

- 市民が参加できるようにする情報は、情報の内容、届け方がポイントになる。(芝原)

(3) 市民ニーズを把握し、政策・施策に結び付ける仕組みの拡充

- 市民ニーズの本音はアンケートからではなく、人づきあいの中から出てくる。(杉山)

施策 4 市民ニーズを的確かつ効率的に聴取する取組の充実

施策 5 市民ニーズを着実に政策・施策に反映させる取組の推進

- 現在実施中のアンケートは、目的と活用方法が見えにくい。(本城)
- パブコメと異なり、アンケートは寄せられた意見に対してフィードバックがされていない。(永橋)

施策 6 「課題の抽出」段階からの市民参加の取組の推進

(4) より参加しやすい審議会等の運営の促進

施策 7 審議会等の公開の推進と運営の改善

施策 8 審議会等の委員の公募の推進

施策 9 幅広い市民層からの審議会等委員への参加促進

(5) 市政運営の各過程での参加の仕組みの充実

- 聴覚障害だけでなく、他の障害をもった方たちに対しても、配慮が必要だ。(石井)

施策 10 政策の形成過程における市民意見の聴取機会の充実

施策 11 市民と課題や思いを共有し、事業実施にいかすための取組の推進

○ 様々な部局でどのような市民参加の手法を取り入れたのかが分かると良い。(芝原)

施策 12 事業の実施段階における市民や団体等の参加機会の確保

○ 市民や団体等と一緒に実施していく中で見つかった課題などをフィードバックして次につなげていくと良い。(辻)

施策 13 財政面からの市民の参加の促進

施策 14 誰もが参加しやすい環境の整備

○ 手話通訳や要約筆記、託児などと列举すると、それ以外のものが見落とされてしまうので、書き方に検討が必要。また、そうした対応は、全ての事業でやっていかないといけない事を明確にしないといけない。(野池)

施策 15 インターネット等の媒体を活用した市民の参加機会の確保

施策 16 公の施設の管理運営への市民や団体の参加の促進

施策 17 市民の意見を施策・事業の点検・評価にいかす取組の推進

(6) 参加を担う人材育成

施策 18 次世代の社会を担う学生などの若者や子どもが市政参加や協働を学ぶ取組の充実

施策 19 市民参加を担う市職員の育成の推進

推進施策 2 市民のまちづくり活動の活性化

○ 推進施策 2 の事業の多くは、従来から区役所などで展開されてきた市民と共にやっている事業である。また、市民活動をサポートする、ということに関しては、既存の団体の方たちをサポートする、という視点のことが多い。どこかの団体に属しているとは限らない人たち同士が、まちづくりに関連して連携するためのきっかけ作りをしようという事業が広がってきている現状を踏まえ、様々な市民の方たちと、どういう協働の関係を作っていくのかという視点は必要だと思う。主体的な活動を活性化するという視点と、パートナーとしてどう付き合っていくかということが重要だ。(事務局)

○ 推進施策 2 は、理念が大事ではないかと思う。それぞれの事業がどのように市民参加に位置付けられるのか、市民のより良い暮らしと一致していくのかという理念が大事だ。(高田)

○ 市民活動団体だけではなく、中小企業、事業者、大学にも「まちづくりをしませんか？」と働き掛け、行政の方と一緒に推進していきたい。(野池)

(1) 地域における多様な活動主体の交流・連携の促進

施策 2 0 地域における幅広い分野の活動主体の活動をつなげるネットワークづくりの推進

施策 2 1 市民主体のまちづくり活動と行政との協働のルール確立

- 京都市では京都ウェイで書かれているような事をどうしていくのか？という事をしっかりと考えていかなければならない状況だ。協働という事で様々な取組が進んでいるが、一方で市民活動の主体性をしっかりと確保しつつ、連携を図っていく事をしっかりと考える取組というのは、京都市側の課題としてある。(事務局)

施策 2 2 区役所の機能強化と行政区単位での取組の推進

施策 2 3 まちづくりに関する情報を集約した窓口の充実

(2) 自主的な活動を始めるための環境づくり

施策 2 4 活動につながる情報や知識を得る機会の提供

施策 2 5 活動の拠点となる身近な活動場所の確保

施策 2 6 活動に必要な資機材等の提供

(3) 市民力・地域力を高める取組への支援

- (3)「市民力・地域力を高める取組への支援」は、市民をひとくくりにはしているが、どういう状況の人をどんな状態にもっていく事が必要なのかという視点が必要だ。(永橋)

施策 2 7 活動に役立つ情報提供・相談等の支援

- 一定の充実は図られているのではと思うが、必要な情報を必要な方に届ける事についてはより一層の取組が必要。(事務局)
- 支援する側の人材の質を確保するためには、そこで働く人に関しても研修などで新しい情報を入れて、質を高める事が必要。(芝原)

施策 2 8 活動に関する知識・経験を深める機会や場の提供

施策 2 9 活動を進めるために必要な人材の育成

- 講座については自主的な活動の支援を目的としたものと、京都市との協働を推進する為のボランティア育成を目的としたものが混在しており、講座内容を確認して議論をしていく必要がある。市民の自主的な活動を広げていくという視点での人材育成はどの程度出来ているのかという事について評価が必要だ。(事務局)
- 「人材」の育成という書き方は、「市民活動のパートナー」、「まだ自主的になっていないグループ」の育成、という書き方が良い。(杉山)
- 人材育成後にどれだけ実践的な活動がされているのか見えてこない。研修、講座は沢山あるが、それが修了した後にどういった活動に繋がっているのかという、流れが分かれば良い。(芝原)
- それぞれの団体の方々は、情報や人を繋げ、人を育てる余裕がないので、中間的な部

分でフォローをするような人が大事だ。(辻)

施策 3 0 民間の資金を活動にいかす資金の流れの仕組みづくり

- NPO のような市民活動団体は、今後、行政が施策によって育てるのか、NPO が自分たちで育っていくのか。双方にメリットがあるよう環境を整える事が重要だ。(杉山)

施策 3 1 活動を広げるために必要な助成・融資に関する支援

- NPO や地縁活動をしている人たちの活動は、最初の志は良いが、その人個人の趣味の領域の活動になってしまっているように感じる。(本城)
- 助成金については、活動途中で相談出来るような体制になっているのかという事も重要だ。(辻)
- 補助金、助成金ではなく、委託料として給料が出て、仕事として成立し、それを受託する形の方が望ましい。(杉山)
- 委託料については、一般管理費の考え方が NPO 側もよく分かっていない所がある。(芝原)
- まだ活動として成り立つか、成り立たないかのレベルの（将来的に大きな課題になるかも知れない）小さな課題、先駆的なテーマへの支援が少ないが、そうした先駆的な活動は、どこが把握するのかという問題がある。また、それを広く見える化するような仕掛けが大事だ。(芝原)

推進施策 3 情報の提供・公開と共有

- 推進施策 3 には、2つの話がある。1つは、市民に参加に繋いでいく制度や、市民参加のきっかけとなる情報をどう届けていくかという事であり、もう1つは、関心を持って貰い、参加しようと思っていただく為に、京都市の行政情報やまちづくり情報をどう届けるかという事。(事務局)
- 行政として難しいのは、一般市民に対する情報と、主体的な人たちが求める情報をどう組み合わせるのかという事だ。(杉山)

(1) 情報提供・公開における手法の充実

- 学生に情報が届いていないという点については、学生側が情報を取りにいかないという事もあるが、情報が多過ぎるので、スルーする力を付けているという気がする。(芝原)

施策 3 2 制度の周知を図るとともに、関心のある市民をつなぎとめる情報発信の工夫

施策 3 3 市政情報誌や印刷物等を活用した情報提供の充実

施策 3 4 インターネットを活用した情報提供の充実

施策 3 6 情報公開に関する取組の充実

(2) 市民の目線、動線に沿った情報提供の取組の充実

施策 3 7 市民にとって身近で立ち寄りやすい場所での情報提供の充実

施策 3 8 市民の意見や提案の反映状況を明らかにする情報提供の仕組みづくり

施策 3 9 効率的で迅速な情報提供を行うための情報の整理

(3) 情報を共有する取組の充実

施策 4 0 市職員が積極的に市民の身近な場所に出向き、情報提供を行う取組

施策 4 1 市民と市職員が課題や思いを共有し、学び合う機会の提供

計画を着実に進めるための推進体制

施策 4 2 市民参加を進めるための庁内の仕組みづくり

- 条例が施行されて以降、市民参加推進会議に市長に入っただき、各局区の局長級で会議を行っている。1年間どのような取組を進めて来たかを確認するとともに、力を入れて取り組む事の確認をしているが、もう少し実務面で、効率的に進めていく方法を作れないか。(事務局)
- なぜ市民参加をやっていくのかという事を自覚しながら業務に取り組む理由を、継続的に意識喚起する事も必要であるが、職場研修等を実施している今の状況で本当に十分なのか。(事務局)

施策 4 3 分野別センターとの連携

- 連携は重要であり、連携する際のつなぎ役が重要だ。うまく民間、分野別センター、NPOなどと融合すると、実質的な連携が図れる。(杉山)
- 分野別センターとの連携については、連携ありきだと動きにくい。事が起こった時に連携できる構え、体制が取れるような、事前の協議、学習会、トレーニングが大事だ。(永橋)

施策 4 4 市民参加推進フォーラムの運営

施策 4 5 計画の進捗管理

- 計画の改訂をチェックリストとして整える事が出来れば、どの項目が出来たか、出来なかったのかという、事業の進捗管理ができる。市民参加推進フォーラムとして、進捗管理部会を設けて管理できれば良い。(永橋)

平成 26 年度市民参加円卓会議について（案）

1 開催目的

市民参加推進計画の改訂に向け、現在、市民参加推進フォーラムが改訂のポイントと捉えている点について、各施策の市民の重要度認識や、推進状況の実感を把握し、計画に盛り込むべき新たな視点や、施策、事業のアイデア等について市民との意見交換を通じて検討の素材集めを行う。

2 運営

計画改訂部会の委員を中心として、京都市市民参加推進フォーラム委員全員で取り組む。

3 対象者

広く一般市民、30 名程度の参加を想定
（京都市地域コミュニティ活性化推進審議会の委員など、市民のまちづくり活動の活性化に重要な役割を果たすと思われる人には、積極的に参加を促す）

4 開催日時

平成 27 年 2 月 11 日（水曜日・祝）午後 1 時 30 分～（3 時間程度を予定）

5 会場

職員会館かもがわ 2 階 大会議室

6 内容

- （1）市民参加推進計画の改訂に当たり、現在、市民参加推進フォーラムが改訂のポイントと捉えている点について説明。
- （2）フォーラム委員がホスト役となつてのグループ討議
 - ・ 1 テーブル市民 4 人＋委員 1 人、委員は聞き役及び引き出し役
 - ・ 改訂のポイントについて、具体的な題目を用いて市民から意見を聴取する

7 備考

- ・ 円卓会議終了後、進行役委員が各テーブルごとの話題内容をまとめ、全体で集約する。
- ・ 上記目的に照らした情報を抽出、整理し、部会で想定した改訂イメージに盛り込む。